

川島のツバキ（未指定）

所在地：庄原市東城町川島

指定年月日：未指定

根回り周囲：2.18m

胸高 幹囲：2.10m

ツバキは、ツバキ科ツバキ属の植物の総称であるが、狭義には、ヤブツバキを指す。照葉樹林の代表的な樹木で、花期は冬から春にかけてである。ヤブツバキの分布は、南西諸島から青森県夏泊半島まで分布し、ツバキ属の自生地 of 北限である。西日本には、+ほぼ全域に分布しているが、東日本では温暖な地域に自生する。

ツバキの用途は、観賞花として古来から日本人に愛され、また、椿油として高級品食用油や整髪料に使用されることが有名である。一方では、ツバキは生長すると樹高 20m ほどになり、摩擦に強く磨り減らないことから工芸品・細工物とし珍重された。しかし、日本のツバキの大木は、ほとんど伐採され、現在は入手困難である。その他、木灰や木炭としても活用された。

本樹は、代々神職を努める中島家の墓地と宮本名三宝荒神社の奥に位置し大切に保護されたものと思われる。

